

大阪大学蛋白質研究所セミナー

生命システムを支配するエピジェネティクス

日時：平成 28 年 12 月 21 日(水) 10:00 ~
開催地：大阪大学蛋白質研究所 1F 講堂

10:00-10:10 所長挨拶

中村春木 (阪大 蛋白研)

セッション 1 生殖、発生

- 10:10-10:40 小分子 RNA によるレトロトランスポソンの DNA メチル化
- 10:40-11:05 ショウジョウバエ piRNA によるクロマチン制御機構
- 11:05-11:30 網膜視細胞の終末分化を制御するエピジェネティクスメカニズム
- 11:30-11:55 DNA メチル化によるリンパ球分化の制御

仲野徹 (阪大 生命機能)
齋藤都暁 (慶応大 医)
大森義裕、古川貴久 (阪大 蛋白研)
岩波礼将 (Max planck Institute)

セッション 2 分子メカニズム

- 13:00-13:25 X 線結晶構造から議論する Dnmt1 の多段階的維持メチル化反応
- 13:25-13:50 HP1 のクロマチンに対する結合様式
- 13:50-14:15 ライゲーションケミストリーに基づく修飾ヒストンの化学合成
- 14:15-14:40 NP95 及びヘミメチル DNA による内在性レトロウイルスの制御
- 14:40-15:05 ヒトゲノムに組み込まれた外来性レトロウイルスの転写制御メカニズム

竹下浩平 (阪大 蛋白研)
末武勲*、三島優一*、
高田彰二** (*阪大 蛋白研、**京大 理)
川上徹 (阪大 蛋白研)
Jafar Sharif (理研 統合生命)
佐藤賢文 (熊本大 エイズ学研究センター)

セッション 3 疾患

- 15:30-15:55 DNA 低メチル化を伴う ICF 症候群発症の分子基盤
- 15:55-16:25 腫瘍抑制因子 Menin による T 細胞老化の代謝・エピゲノム制御
- 16:25-16:55 腸内細菌定着による免疫エピゲノム修飾変化の誘導
- 16:55-17:25 精神疾患患者由来試料におけるゲノム・エピゲノム変異の探索
- 17:25-17:55 エピゲノム編集とその可能性

鶴木元香 (九大 生体防御研)
山下政克 (愛媛大 医)
長谷耕二 (慶応大 薬)
岩本和也 (熊本大 生命科学)
畑田出穂 (群馬大 生体調節研)

18:00- 交歓会

会場へは、阪急電鉄 北千里駅より徒歩 15 分

御堂筋線 千里中央駅より タクシーで 10 分 または 阪急バス「小野原東行き」にのり 阪大口下車 5 分

参加登録、参加費 不要

問い合わせ先：岩波礼将(Max Planck Institute of Immunobiology and Epigenetics, iwanami@immunbio.mpg.de)

末武勲(阪大蛋白研、suetake@protein.osaka-u.ac.jp)